

図書館だより

'02.09

大人のシュミ、少年のカガク 日中“虫”文化

名畑嘉則(日本語・日本文学科)

6月下旬、梅雨明けとともに、上海の街路に降り注いできたのは、脳天を焼く真夏の陽光と、耳を聳する「ジュワジュワジュワ…」というセミたちの大合唱でした。黒光りする胴体に幅の広い頭を持ち、透明の長い翅をしている。どうやら日本で言う「クマゼミ」にあたる種類の様です。この「ジュワジュワジュワ…」が、中国の人々には「知了、知了、知了…」に聞こえるらしく、セミのことを中国語で“知了”と呼びます。中国語のローマ字表記では「zhi liao」、「ヂー・リャお」のような発音になります。



この時節、日本にいれば子供と一緒に野山へ虫取りにでかけていたところですが、上海ではそうは行きません。そもそも上海、というより中国では、捕虫網などといったモノは全く売られていないのです。宿舎の近所に魯迅公園という公園(魯迅の墓がある)があり、ここは緑の濃い、なかなか気持ちのいい空間なのですが、日本でならばよく見かけるはずの虫取り網を持った子供にはついで出くわしませんでした。要するに中国には子供が虫取りをする習慣、文化というようなものが存在しないわけです。

では中国には虫に関する「文化」は全く存在しないのでしょうか?否否とんでもない!!悠久の歴史と恐るべき深みを持つ「虫文化」がちゃんと存在します。

セミたちが鳴き始めるのとほぼ時を同じくして、上海の街角には、竹を球状に編んだ籠を天秤棒に山ほどぶら下げた(あるいは自転車に結わえ付けた)行商人が出没し始めます。少し近寄ると無数の籠から「ギ、ギ、ギ、ギ、ギ…」という声が。日本で言えば「キリギリス」に似た虫です。ただキリギリスより体はずっと大きく、色は黒くて翅は短い、鳴き声も日本風に「ギーッ(チョン)」と長く伸ばさず、スタッカートした断続鳴きです。(言わ

目 次

大人のシュミ、少年のカガク ……………1 -日中“虫”文化- 名畑 嘉則	図書館オリエンテーションを終えて ……………6
映画と読書 ……………4	新任スタッフ紹介 ……………7
	お知らせ ……………8

ばヒメギスを巨大化したようなイメージですね。)これを中国語では“ 蝻蝻 guo guo(ぐお・ぐお)”と呼びますが、やはり鳴き声から付いた名前でしょう。この虫を“ 老百姓”(一般民衆)たちは「暑気を消す」効果があると称して買い求めて行くのです。

中国の都市には、ほぼ必ず“ 花鳥市場 ”と呼ばれる一角があります。上海ほどの大都市(人口1,400万余)になると、中心部をはじめ市内各地に何箇所も点在します。市場の中には露店が建ちならび、各種の花や“ 盆景(盆栽) ”、ハトや九官鳥から文鳥、メジロといった小鳥、金魚や熱帯魚、亀などまで様々な愛玩用の動植物が売られています。

もちろん虫を売る店もあります。虫の店では、蝻蝻をはじめウマオイ、クソムシの類や、秋に近づくとコオロギ、マツムシ、クサビバリ等が店頭に並び、また、それらと同時に様々な“ 虫具 ”も取扱われます。

たとえば、華奢な竹細工や真鍮細工の籠(ディズニーのアニメ「ムーラン」でコオロギを入れていたようなやつ 写真参照) “ 蝻蝻葫蘆 ”(ヒョウタン細工の虫入れ)など。ちなみに私が買って来た葫蘆は(写真右)胴体にはコウモリの絵柄が浮き出ており(コウモリ=蝙蝠の蝠は福と同音なのでお目出度い動物とされる)蓋には細かい唐草模様の彫刻が施されています。こうした蝻蝻葫蘆は、ヒョウタンの実がまだ小さいうちに模様の雌型を彫り込んだ型に入れ、十分成長して雌型にしっかり食込んだ所で型をはずし、中身をくりぬき乾燥させて作るもの。何やら“ 纏足 ”を思わせるような製法です。ヒョウタンを用いるところも、中国ではヒョウタン



は性的なシンボルになったり、豊穡を意味する縁起ものとされたりします。(ヒョウタンの持つシンボリズムについては中野美代子氏の著書などを参照。)ただしヒョウタンが成長し切る前に腐ってしまうことも多く、うまく行くのは数分の一の確率とのこと。骨董店では清朝のころに作られた、蓋も象牙を用いた逸品などに高値が付いているそうです。こうした容器に入れて肌身に着ければ適度に保温されることになり、伝統的に工夫されてきた飼育法に従って注意深く飼育すると蝻蝻は冬まで生き延びさせることができます。春節(旧正月)過ぎ頃にもコートの中で鳴く虫を自慢げに連れ歩くオジサンたちを見かけたものです。

他にも、コオロギを飼うための籠や“ 紫檀盒 ”(クサビバリやマツムシなど小型の虫を入れて連れ歩くための小さな平たい木製の容器)など。紫檀盒も中々風流なもので、私が買って来たもの(写真手前)は、対聯を刻した外側の覆いはずすとガラス窓が入っており、中の虫が見えるようになっています。

市場では、覆い部分に綺麗に絵付けした陶板をはめ込んだものなど、さらに凝ったものも見かけました。

中国では、コオロギの飼育には遙かな歴史があり、虫同士を闘わせる“闘蟋蟀”の競技も昔から行われています。闘蟋蟀は唐代に始まるとも言われますが、文献上では、南宋末の宰相賈似道が、王朝滅亡の危機的状況をも顧みずお妾たちとこれに興じていたと記す『宋史』奸臣伝の記事が最も古いようです。現在でも大会が開催されており、チャンピオンは“蟋蟀將軍”と呼ばれ、競技は体重による階級別で行われる。歴代の將軍の写真集が出版されるくらい人気があります。この闘蟋蟀のための用具も、提籠(虫を運ぶための小型の籠)、闘籠(闘いの舞台となる器)、芡筒(虫を興奮させしめるための筆様の道具)など各種の物が工夫されており、やはり花鳥市場で入手できます。陶製の籠類も素焼きの素朴なものから、文人趣味の雰囲気漂う彩色の絵付けが施された物まで色々です。もっとも闘蟋蟀自体は大の大人がやる遊びですから、必ずしも優雅な文人趣味の世界にはとどまらず、金銭を賭けたバクチの要素などを多分に含むこともあり、かつては色々社会問題の種にもなったようではありますが。(そう言えば『聊齋志異』にも“闘蟋蟀”をめぐる悲喜劇を描いた篇があります。)

子供たちの、虫捕り網を持って虫を追いかける行為自体は、人間の原初的“狩猟本能”に由来するものかも知れません。しかし日本においてはそれが、やがてカガク少年の「昆虫採集」へと洗練され、何

とはなくガクジュツ風、ペダントリイを志向する、という方向づけのもとに社会的に承認され、あまつさえ奨励されてさえ来ている(「夏休みの自由研究」等の形で)という近代以降の歴史があります。“博物学”の名のもとに行われる採集、標本という“屍体”収集の是非などについてとやかく言うつもりはありませんが、少なくともこのような志向は、昆虫を“五官”の対象として味わおうとする行き方とはおよそ対照的なものと言えます。

中国の「虫文化」、それはむしろ骨董趣味などと近い性質のもの、つまり大人の、大人による、大人のための道楽なのであり、それだけに財力に任せて極端なマニアの世界へと突っ走ってしまうのだが、生き物は生き物としてその生のままを味わうことを基本とし、何より“五官”に直接的に訴える快樂(耳で声を楽しみ、目で姿を楽しむ)を追求するものでした。(たとえば日本でクワガタムシなどに人気があるのは、恐らくそのメカニクな生物っぽくない姿形などによる所が大きいのだと思いますが、中国ではこんな「芸の無い」虫はさっぱり人気がありません。ちなみに動物園でもパンダなど動きの鈍い動物は人気が無いようです。)その強固な伝統に西洋風“博物学”が入り込む余地は無かったと言えるでしょう。



観てから読むか、読んでから観るか

映画と読書

最近、AV資料の利用が増え、AVブースが満員になることも多く、図書館としては嬉しいかぎりです。利用の増加と同時に、映画のDVDなど、資料の充実を目指しています。

ところで映画のAV資料には原作のあるものもあります。名作と言われるものから今一番読まれている本まで、映画と原作の違いを体験してみませんか？

<薔薇の名前>

著者は有名な記号論学者ウンベルト・エーコ。この「薔薇の名前」はヨーロッパに異端審問の嵐が吹き荒れていた14世紀初頭、八角形の奇妙な塔をもつ北イタリアのベネディクト派修道院で起こった奇怪な殺人事件のお話です。明晰な頭脳をもつ修道士ウィリアムは、事件の究明に乗り出し、ついに図書館に隠された、修道院の秘密につきあたる...



【図書】
ウンベルト・エーコ著 河島英昭訳
東京創元社 1990
本館 973/E19/1-2

【VHS】
花川館 VC/908

ぼっばや <鉄道員>

第117回直木賞を受賞した作品です。北の果ての小さな終着駅を舞台に、鉄道員として誇りをもって生きた一人の男に起こったやさしい奇跡の物語。映画館で号泣する人を続出させた一作で、ロケ地は根室本線幾寅駅で行われ、北海道の厳しさとおしさも味わえます。



【図書】
浅田次郎著
集英社 1997
本館 913.6/A81

【DVD】
本館 e/DV/965

<シャーロック・ホームズの冒険>

大胆かつ繊細、不敵にして緻密、不世出の天才にして希代の変人。映画ではあませんが、今なおミステリーファンを魅了するシャーロック・ホームズのDVDです。第1話「ボヘミアの醜聞」から



【図書】
コナン・ドイル著 小池滋監訳
東京図書
本館 933.9/D89/1-21

【DVD】
本館 e/DV/881/1-e
たくさんあります。一読してみてください。

<秘密>

ミステリー作家、東野圭吾の作品を映画化したものです。妻と娘を乗せたバスが谷に転落し、妻は死亡。そして娘には死んだ妻の意識が体に宿ってしまった。見た目は小学5年生の娘、けれども意識は妻のもの。ミステリーというよりは、ファンタジックな物語です。



【図書】
東野圭吾著
文芸春秋 1998
本館 913.6/H55



【DVD】
本館 e/DV/964

<赤毛のアン>

赤毛でソバカスだらけ、想像力豊かで明るいアンは、周囲の人々の愛情に包まれて、すこやかに成長していく。プリンス・エドワード島の美しい自然を舞台に描かれたこの物語は、1989年に映画が日本で公開されると大ヒットし、LDはその時にカットされた約50分のエピソードが加えられて<完全版>となっています。



【図書】
L・M・モンゴメリ著
松本侑子訳
集英社 1993
本館 A933.5/Mo38



【LD】
花川館 e/LD/1008:1-2

<ハリー・ポッターと賢者の石>
いつも貸出中で予約をしたもの
のしばらくたってから順番が回ってきた、
という方も多いのではないのでしょうか。
DVDが図書館に入りました。映像
でのハリー・ポッターも図書館でどうぞ
お楽しみください。



【図書】
ハリー・ポッターと賢者の石
JKローリング作 松岡祐子訳
静山社 1999
花川館 933.9/R78



【DVD】
本館 e/DV/971:1-2

<ヘビトンボの季節に自殺した五人姉妹>

1970年代、舞台はアメリカ・ミシガン州の上品だが、平凡で、
どこか活気のない郊外住宅地。数学教師の夫とつづけに
厳しい妻の間に生まれたリズボン家の5人の美人姉妹が、
末妹のセシリアの投身自殺を皮切りに、次々と謎の死
を遂げてしまう…。5人姉妹の美しさに惹きこまれ、後に
何とも表現し難い残像が残るのは、マルチクリエイター、
ソフィア・ Coppola監督のなせる業だろうか…。



【図書】
『ヘビトンボの季節に自殺した五人姉妹』
ジェフリー・ユージェニデス著
佐々田雅子訳
早川書房 2002
本館 A933.5/E62



【DVD】
『ヴァージン・スーサイズ』
本館 e/DV/917

<星の王子さま>

サハラ砂漠に不時着した飛行士が小さな星からやってきた王子さまと出会う。王子はバラの花と仲たがいをし、故郷の星から旅に出たのでした…。仲良くなったキツネは王子と別れるとき、おくりものにしようとした「秘密」を言います。「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないうつことさ。かんじんなことは、目にみえないんだよ。」所蔵しているVHSは美しいミュージカルに作り上げられています。



【図書】
星の王子さま:オリジナル版
サン・テグジュペリ著
内藤権訳
岩波書店 2000
花川館 953/Sa



【VHS】
花川館 VC/894

<玻璃の城>

新年早々異国の地で起こった交通事故で、自分の父親が見知らぬ女性と突然の死を遂げた、という設定で物語は始まる。舞台は香港。ラファエルとヴィヴィアンは、かつての恋人同士。40代の偶然的な再会で二人は…。息子の目を通して、物語が語られる。



【図書】
玻璃の城
アレックス・ロー著
実川元子訳
愛育社 2000
本館 922/L41



【DVD】
本館 e/DV/853

ご紹介した他にもたくさんの資料があります。ぜひ利用してください。

図書館オリエンテーションを終えて

今年も5月に新入生を対象に、オリエンテーションを行いました。

4年間の大学生活で、図書館をうまく活用していく"第一歩"とオリエンテーションを捉え、職員引率のもと館内案内後、実際に検索等をしてもらうという参加型の形式をとって、今年で3年目。今年度は新入生のうち8割以上の参加率でした。オリエンテーションの感想としては、図書館の使い方や検索の仕方がわかって参考になった、蔵書の多さ・図書館の広さに驚いた、等好印象を持った人が多かったようです。ここでは、昨年度に引き続き、本館で参加者をお願いしたアンケートに寄せられた質問・意見のいくつかにお答えします。

- ・ AV資料を増やしてほしい。
- ・ 音楽のDVDやビデオも入れてほしい。
- ・ ふつうのファッション雑誌・音楽雑誌・映画雑誌を入れてほしい。
- ・ 音楽や法学(特に民法)に関する書籍をもっと置いてほしい。



このような要望に関しては、『購入希望』というシステムがありますので、まずそちらのほうに希望を出してみてください。全ての希望がかなうとは、お約束できませんが、最近では随分幅広い分野の資料が増えてきていますよ。昨年みなさんの購入希望で入った資料をご紹介しますと...

〔図書〕「ドリームバスター」、
「コソボの少年」、
「英語で日記を書いてみる」etc.

〔AV資料〕「シャーロックホームズの冒険」、
「ショコラ」、
「ブリジッドジョーンズの日記」(花川館)etc. です。



- ・図書館内の設定温度が少し低い。寒い。
- ・書庫が暗くて探しにくい。
- ・過ごしやすくしてほしい。
- ・図書館の使い方や構造を覚えるのは大変そう。
- ・地下集密書庫入口をいつも開放してほしい。
- ・全ての端末でインターネットを使えるようにしてほしい。

ここにあげていることは、すぐには解決するのが難しいこともありますね。書庫に関しては、今夏壁の塗装をしましたので、かなり明るくなって利用しやすくなりました。又図書館の使い方・構造などについては、図書館の職員を大いに活用して下さい...と考えています。これからも、少しでも快適に過ごせる環境をつくっていくことを、心掛けていきたいです。

オリエンテーションを受けそびれて、しまった!!と思っているみなさん。

今からでも遅くはありません。職員に一声かけて下されば、いつでもご相談にのりますよ。



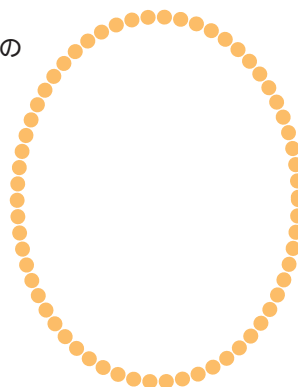
新任スタッフ紹介

花川館情報サービス係 辻石 未来

あっという間に夏が終わってしまいました。私は夏らしいことはあまりしないまま、平日は図書館で本に囲まれ、休日はドライブがてら大型本屋に通うという毎日でした。

私が花川館で働き始めてから5ヶ月も経過したようですが、まだ、館員の方々の半分も動けていません...。図書館のお仕事は、思っていた以上にハードです。それでも、毎日が充実していて、ほのかに幸せです。

図書館の楽しみ方はいろいろとあると思います。自分なりの楽しみ方を発見してください。本に興味がなくとも、自分の興味があることをテーマにしている本は、きっとあります。探し方がわからないときは、カウンターまでおこしてください。私はまだまだ不慣れなのですが、よろしくお願ひします。



ご存知
ですか?

お知らせ

地下集密書庫入口を開放しています!!

今年度より、試行ではありますが地下集密書庫入口が、毎週水曜日(開講日のみ)に開放されています。12:30～16:30までという短い時間ではありますが、今まで不便だった集密書庫へのアクセスが、幾分緩和されているようです。

ただし、地下書庫には入退館ゲートがありませんので、地下入口からの退館時には荷物のチェックが必要となります。又、貸出の手続きはカウンターでの取扱いとなりますので、2F閲覧室まで足を運んでいただくことになります。限られた利用になりますが、学生玄関より直結の地下入口をどうぞご利用下さい。

今年度地下集密書庫入口を開放する日程です。

2002年 **9**月 …… 9/18 , 9/25

2002年 **10**月 …… 10/2 , 10/9 , 10/16 , 10/23 , 10/30

2002年 **11**月 …… 11/6 , 11/13 , 11/20 , 11/27

2002年 **12**月 …… 12/4 , 12/11

2003年 **1**月 …… 1/22 , 1/29

2003年 **2**月 …… 2/5

藤女子大学

図書館だより 第63号 2002.09

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館

TEL 011-736-5405 FAX 011-709-4770

<http://library.fujijoshi.ac.jp/index.html>